

アンケートデータを用いた主観的要素等に関する分析・ 有識者ヒアリング調査の結果報告(速報版)

1-1. アンケート調査の目的

- 沖縄のこどもの幸福度等の主観的要素と現状・課題に関する状況を把握し、沖縄におけるこどものウェルビーイング実現に向けた政策研究のテーマ検討に資する基礎データとすることを目的とし、下記2点を実施した。

① 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析

沖縄のこどもの幸福度等に関する主観的要素*1を調査する。

こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」等の既存調査と共通の設問を用いることで、全国と比較した沖縄の特徴を分析する。

② 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析

文献調査等の結果を参考に、沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素*2と主観的要素の関係を分析することで、沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けた政策課題・視点を得る。

*1 「主観的要素」の定義：心や精神の状態（幸福度、満足度、孤独感、価値観 等）に関わる要素

*2 「客観的要素」の定義：属性（性別・年齢、経済状況 等）、学力、周辺環境（住居、公共施設 等）、行動（勉強や運動等の実施状態、生活時間 等）に関わる要素

1-2. 有識者ヒアリングの実施

- 沖縄県のこどもの主観的要素に関するアンケート調査の結果について、沖縄のこどもの行動や心理に関する有識者に対してヒアリングを実施した。
- 結果に対する解釈や考えられる要因について、文献調査・アンケートデータの分析では把握しきれない詳細な情報やその背景(歴史的・文化的・地理的背景等)を把握することを目的とする。
 - 対象者:有識者4名予定 (実施方法:オンライン)
 - 実施期間:2025年11月中下旬
- ヒアリングの内容(概要)
 - アンケートデータの分析結果に対する解釈、ご意見
 - 今後の調査・分析に向けた改善点

2. 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析(1)

分析内容①沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析(再掲)

沖縄のこどもの幸福度等に関する主観的要素を調査するため、こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」等の既存調査と共通の設問を用いることで、全国と比較した沖縄の特徴を分析する。

- 2-1では、今回のアンケート調査の結果データから集計を行った。
- 2-2では、こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」と今回アンケート調査の共通の設問の回答結果を比較し、全国と比べた沖縄の特徴を分析した。
- こども家庭庁の調査は、3種類の調査(10歳～14歳対象調査、15歳～39歳対象調査、40歳～69歳対象調査)で構成される。各調査で集計が分かれており、集計ではウェイトバックが行われていない点は、今回のアンケート調査とは異なる。
 - 10歳～14歳対象調査及び15歳～39歳対象調査の年齢別集計のうち15～19歳の結果と比較を行った。

➤ 今回アンケートにおけるこども家庭庁の調査との共通設問

設問番号	主観/客観	設問概要
F1～F3	客観	性別、年齢、同居者
F4-1	客観	在学状況
F4-2	客観	就業経験
問1	主観	自己肯定感
問2	主観	(主観的)幸福度
問4	主観	居場所
問5	主観	孤独感
問6	主観	周囲の人との関わり方(家族・親戚)
問7	主観	周囲の人との関わり方(学校の友人)
問8	主観	周囲の人との関わり方(地域の人)
問9	主観	将来への希望
問11	主観	相談相手
問12	主観	相談相手なしの理由
問13	客観	相談場所の認知度(10～14歳のみ)

2. 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析(2)

- 集計は、全体と4つの属性で行った。沖縄の市町村は、居住地域及び本島・離島で分類した。

➤ 属性の種類

属性	区分
年齢	10歳、11歳、12歳、13歳、14歳、15歳、16歳、17歳
家族類型	ふたり親世帯(2世代)、ふたり親世帯(3世代)、母子世帯、父子世帯、その他の世帯
居住地域	北部、中部、南部、宮古・八重山
本島・離島別	本島、宮古島・石垣島、その他の離島

➤ 居住地域及び本島・離島別の市町村分類

居住地域	自治体	離島・本島別	居住地域	自治体	離島・本島別
北部	名護市	本島	南部	那覇市	本島
	国頭村	本島		糸満市	本島
	大宜味村	本島		豊見城市	本島
	東村	本島		南城市	本島
	今帰仁村	本島		与那原町	本島
	本部町	本島		南風原町	本島
	恩納村	本島		八重瀬町	本島
	宜野座村	本島		渡嘉敷村	その他の離島
	金武町	本島		座間味村	その他の離島
	伊江村	その他の離島		粟国村	その他の離島
	伊平屋村	その他の離島		渡名喜村	その他の離島
	伊是名村	その他の離島		南大東村	その他の離島
				北大東村	その他の離島
中部	宜野湾市	本島	宮古・八重山	久米島町	その他の離島
	浦添市	本島		宮古島市	宮古島・石垣島
	沖縄市	本島		石垣市	宮古島・石垣島
	うるま市	本島		多良間村	その他の離島
	読谷村	本島		竹富町	その他の離島
	嘉手納町	本島		与那国町	その他の離島
	北谷町	本島		-	-
	北中城村	本島		-	-
	中城村	本島		-	-
	西原町	本島			

※「その他の離島」は、沖縄本島から離れた離島市町村

2. 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析(3)

● アンケート集計に関する留意事項①有効回答数とウェイト値

- アンケートデータの集計にあたって、沖縄県のこども(10～17歳)※の人口構成比を反映するため、性・年齢・地域別にウェイトをつけて集計した。
- ウェイト値は、性別「その他」及び居住地域「その他」の回答を除く有効回答で計算した。
 - 全体の有効回答数は1,735、性別「その他」及び居住地域「その他」の回答を除くと1,708。
- なお、各設問における無回答の割合は集計に含めている。

➤ 有効回答数(計1,735)

	10～14歳				15～17歳			
居住地域	男性	女性	その他	合計	男性	女性	その他	合計
北部	39	41	1	81	21	24	1	46
中部	176	199	5	380	152	174	7	333
南部	200	193	4	397	131	148	6	285
宮古・八重山	65	64	0	129	42	39	0	81
その他	0	0	0	0	2	1	0	3
計	480	497	10	987	348	386	14	748

➤ ウェイト値

(有効回答数を性別及び居住地域で人口比例するように補正する係数)

	10～14歳		15～17歳	
居住地域	男性	女性	男性	女性
北部	1.21	1.11	1.44	1.10
中部	1.39	1.19	0.94	0.80
南部	1.09	1.10	0.96	0.82
宮古・八重山	0.59	0.58	0.51	0.52
計	1.14	1.07	0.92	0.80

※沖縄県「令和7年住民基本台帳年齢別人口」(令和7年1月1日現在、総数)より10～14歳、15～19歳の人口を性・年齢・地域別に集計した。調査対象である15～17歳の人口は、総務省「令和2年国勢調査」より沖縄県市町村別の性・年齢(1歳年齢別)人口を集計して按分係数を作成し、15～19歳人口を補正し、推計した。

2. 沖縄のこどもの主観的要素の把握・分析(3)

● アンケート集計に関する留意事項②属性別の有効回答数と集計結果の留意点

- 集計は、性、年齢、家族類型、居住地域、本島・離島の属性や設問の選択肢の区分で実施しており、ウェイトバック前の有効回答数が極端に少ない場合(30サンプル以下)、統計学的に信頼性が低いいため、該当する集計には注釈を付記し、解釈を留意している。

➤ 属性別の有効回答数

		全体	10~14歳	15~17歳
全体		1,735	987	748
性別	男性	828	480	348
	女性	883	497	386
	その他	24	10	14
家族類型	ふたり親世帯	1,392	819	573
	母子世帯	270	140	130
	父子世帯*	40	23	17
	その他の世帯*	33	5	28
居住地域	北部	127	81	46
	中部	713	380	333
	南部	682	397	285
	宮古・八重山	210	129	81
	その他*	3	0	3
本島・離島別	本島	1,495	838	657
	宮古島・石垣島	198	117	81
	その他の離島*	39	32	7
	その他*	3	0	3

- 例えば、左表の場合、
家族類型の「父子世帯」及び「その他の世帯」では、
10~14歳及び15~17歳、
本島・離島別の「その他の離島」では15~17歳の
場合で、30サンプル以下となるため、
集計結果(ウェイトバック後)の解釈に留意が必要になる。

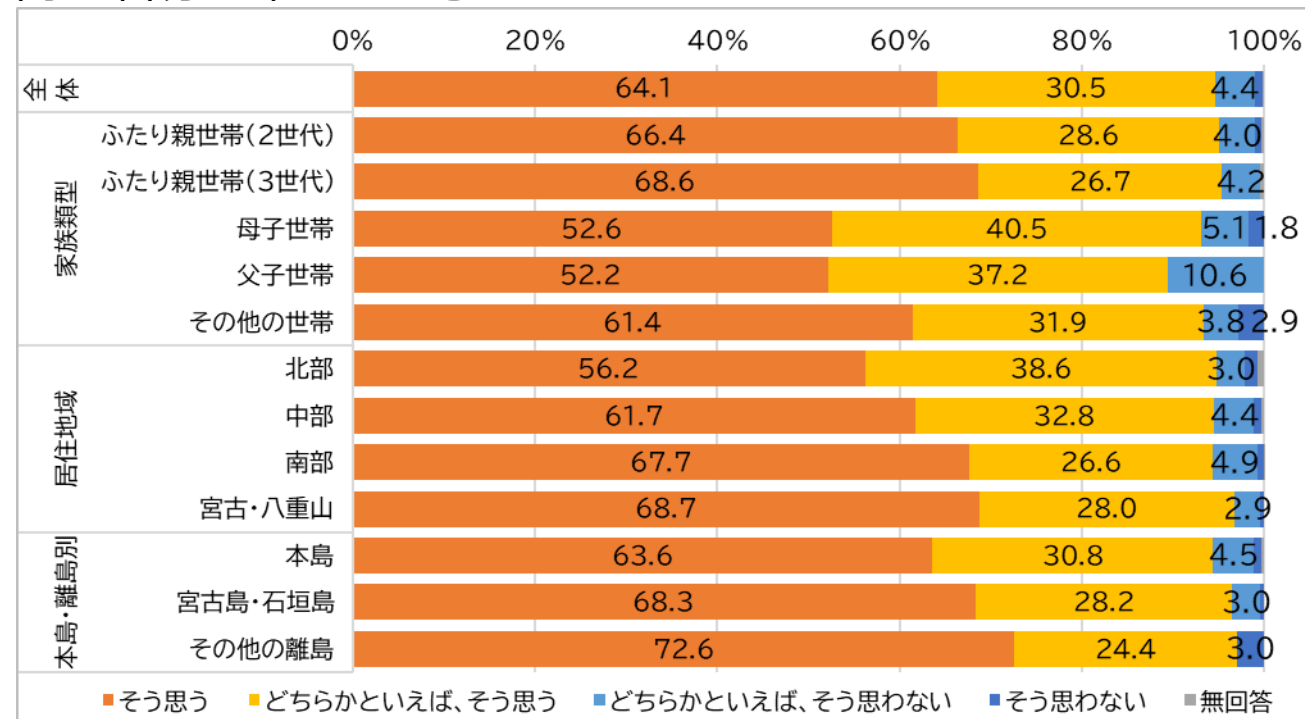
※集計結果は、ウェイトバックのため、性別「その他」、居住地域「その他」、本島・離島別「その他」において集計値はない

*ウェイトバック前の有効回答数が極端に少ない(30サンプル以下)ため、集計結果の解釈には留意が必要

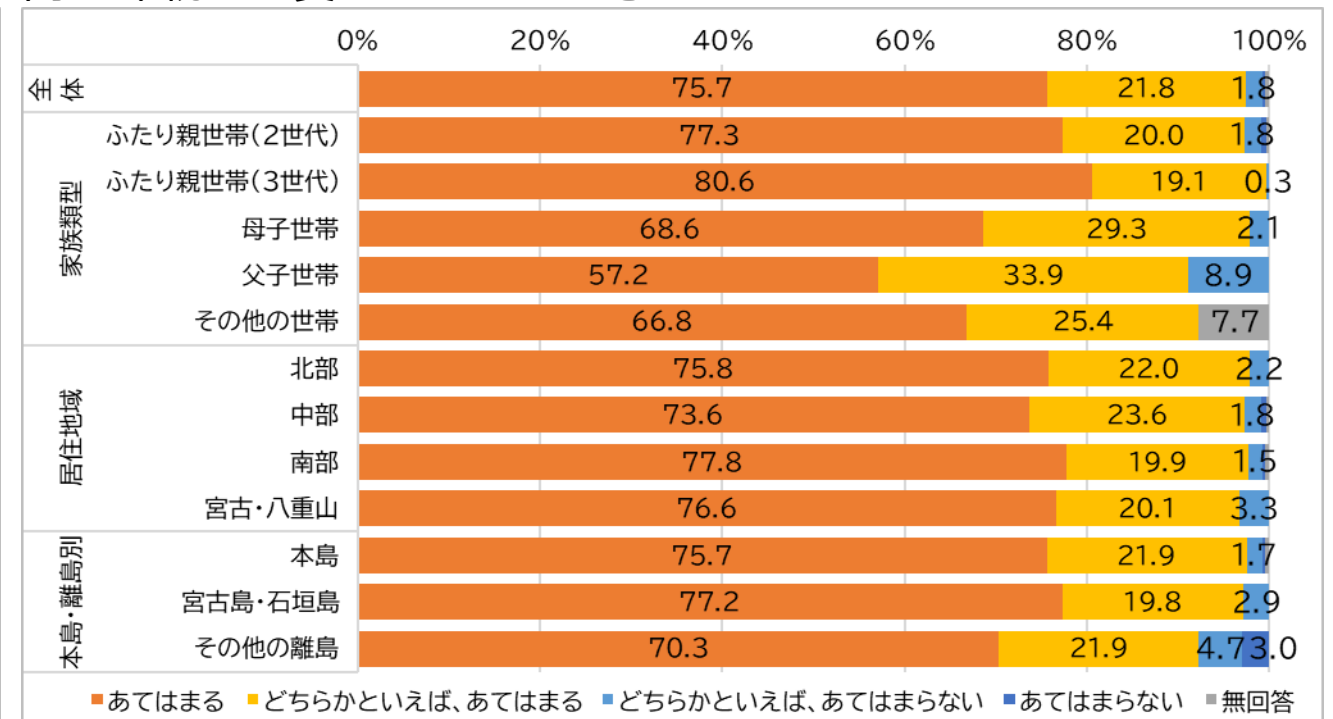
2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(1)

- 沖縄のこどもは幸福度が高い割合。ひとり親世帯では幸福度低い・孤独感高い傾向
 - 問2 自分が幸せだと思うか(左図)では「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合算した回答割合がいずれの属性でも9割程度が多い。居住地域や本島・離島の属性では差がみられないが、父子世帯で9割を下回った。問1イ)親から愛されていると思うか(右図)でも「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合算した回答割合がいずれの属性でも9割程度だが、ひとり親世帯(母子世帯、父子世帯)で9割を下回った。

問2 自分が幸せだと思うか



問1イ)親から愛されていると思うか



2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(1)

(つづき)

- 問1ア)今の自分が好きだ(p.10左図)では「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合算した回答割合が、ふたり親世帯が8割以上と比べ、ひとり親世帯(母子世帯、父子世帯)は8割を下回った。また、問5孤独だと感じるか(p.10右図)では「決してない」「ほとんどない」を合算した回答割合は、父子世帯が他の世帯よりも10ポイント以上低い結果となった。

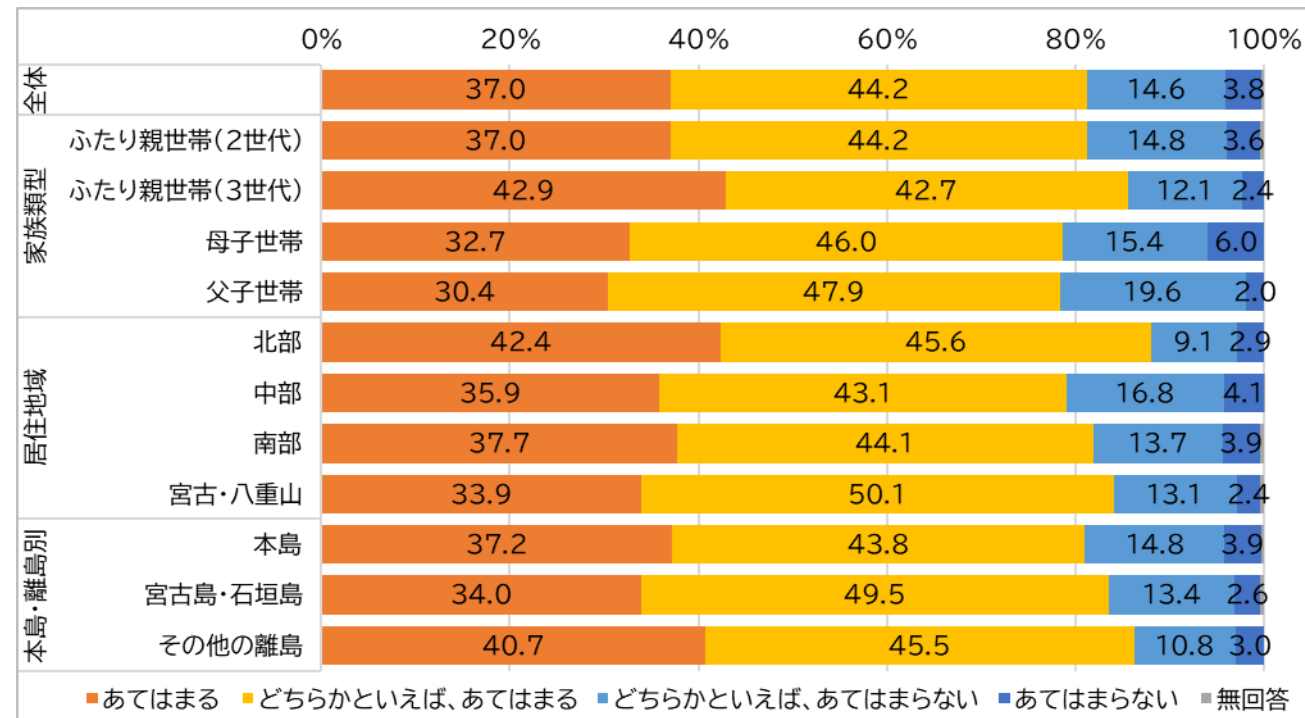
【有識者ヒアリングよりコメント(抜粋)】

- 主観的幸福度(自分が幸せだと思うか)に関するアンケートをこどもに実施した場合、既存のどの調査でも主観的幸福度が高く出がちな傾向がある。こどもは、貧困等のマクロな視点ではなく、比較的狭い・単純な文脈(「学校が楽しい」、「友達と放課後遊ぶのが幸せ」等のあいまいな基準)で「幸せ」を判断しやすいという点を考慮して分析する必要がある。ひとり親世帯では、主観的幸福度が低い傾向が見てとれ、これは親の有無は小さいこどものレベルでも明確な違いを認識しやすいためではないか。沖縄のこどものウェルビーイングを考える上では、マクロな視点よりも、世帯構成などのこどもにとって身近な違いが重要なカギになると考えられる。

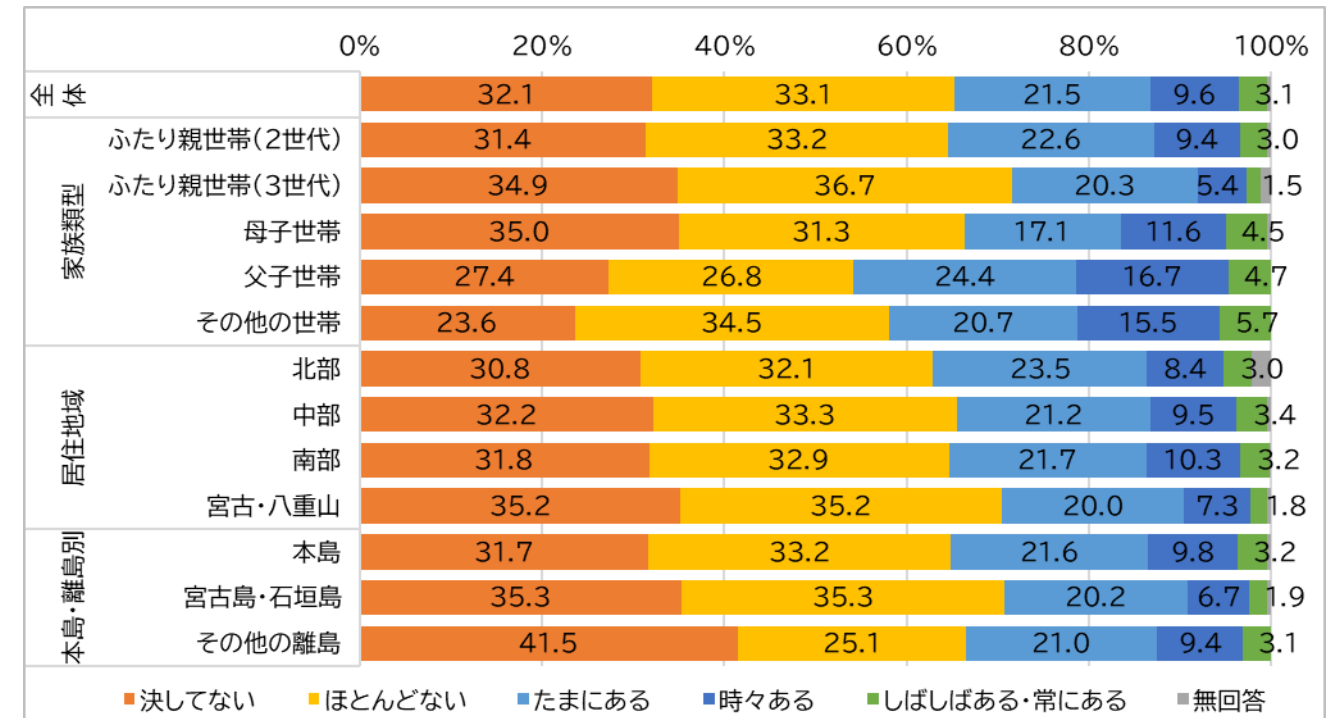
2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(2)

- 離島のこどもは、本島のこどもよりも自己肯定感が高い・孤独感が低い傾向
- 問1ア)今の自分が好きだ(左図)では「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合算した回答割合が、本島よりも離島の方が高い。宮古島・石垣島は2.5ポイント、その他の離島は5.2ポイント本島よりも高かった。問5 孤独だと感じるか(右図)では「決してない」「ほとんどない」を合算した回答割合は、宮古・八重山(中でも宮古島・石垣島)で、本島を含めた他の地域よりも5ポイント以上高かった。

問1ア)今の自分が好きだ



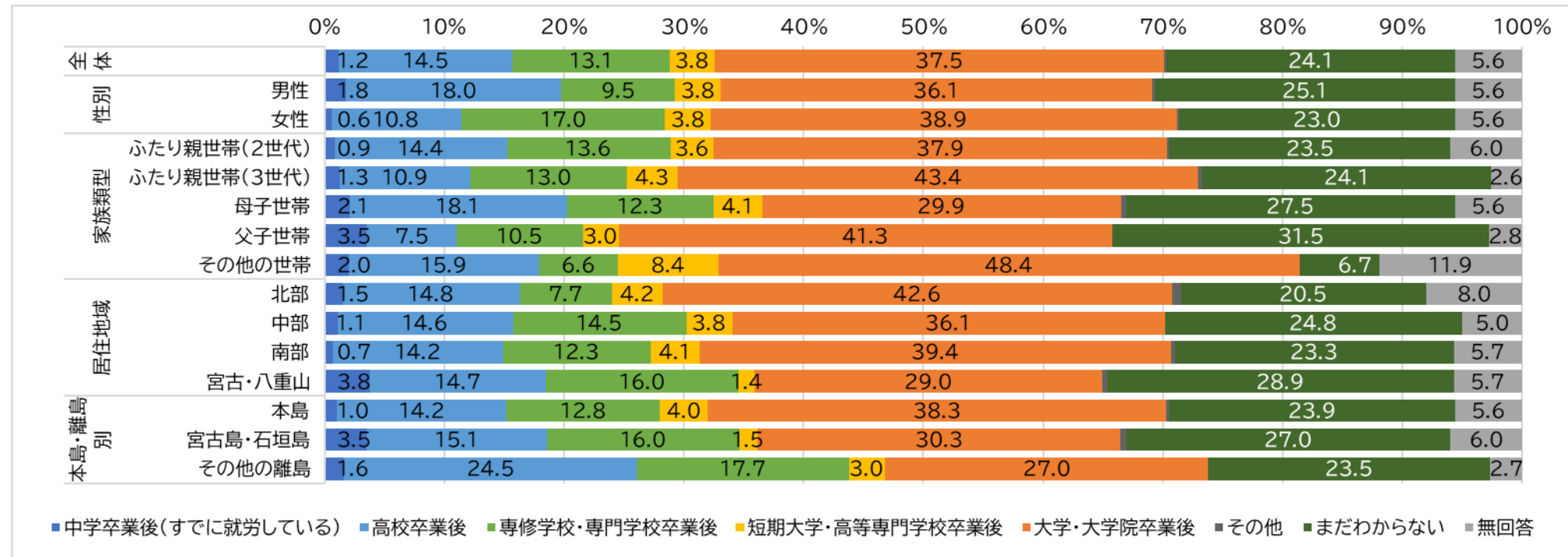
問5 孤独だと感じるか



2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(3)

- 社会に出る時期は、性別・家族類型・居住地域で特色が異なる
 - 問17いつから社会に出て働くか(下図)では、性別では、「大学・大学院卒業後」の回答割合は差がみられないが、「高校卒業後」は男性の方が女性より7.2ポイント高く、「専門学校卒業後」は女性の方が男性より7.5ポイント高かった。家族類型では、ふたり親世帯でも「大学・大学院卒業後」が三世帯の方が二世帯より5.5ポイント高く、母子世帯では他の家族類型より「高校卒業後」が高い。地域別では、「大学・大学院卒業後」は北部が高く4割以上であり、宮古島・石垣島やその他の離島は3割程度。

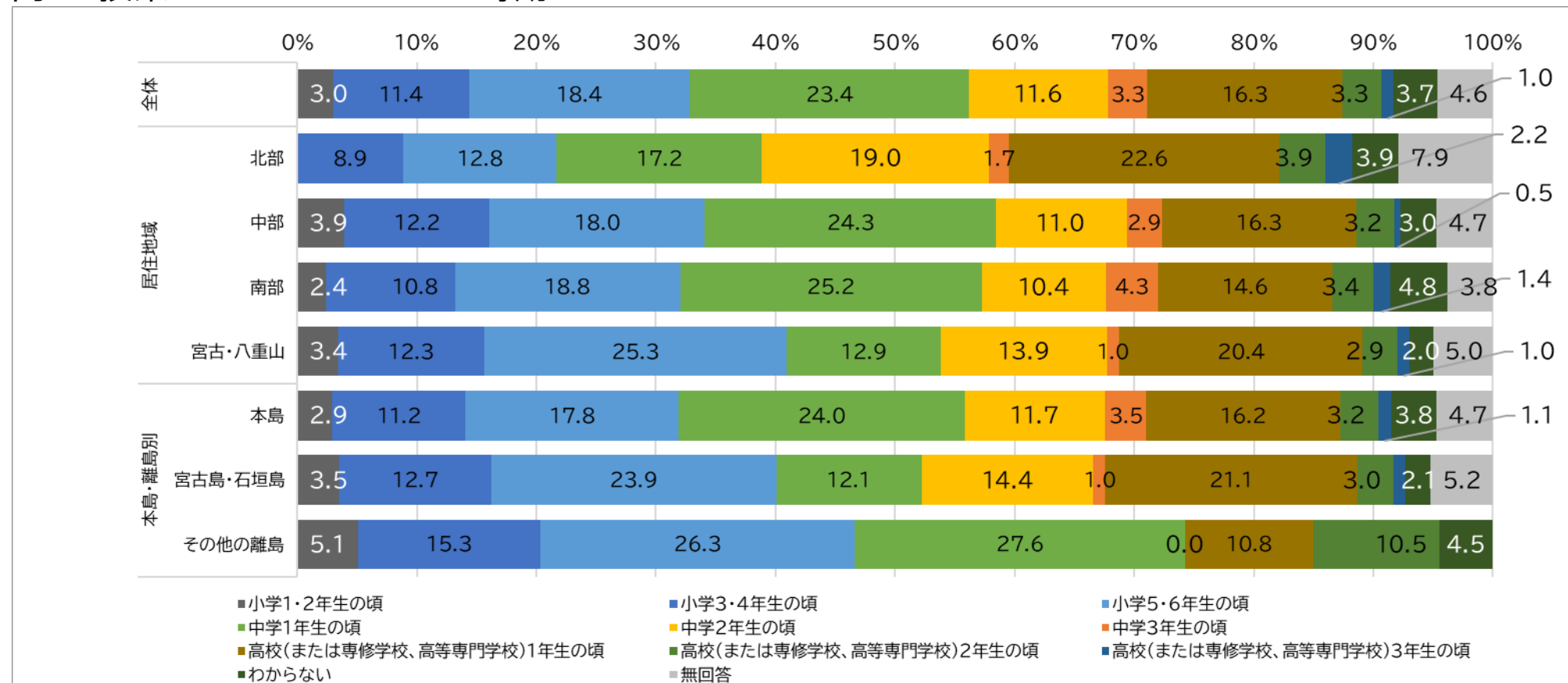
問17いつから社会に出て働くか



2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(4)

- 授業が分からなくなる時期は、地域によっては早い傾向
- 問16授業がわからなくなった時期(下図)では、小学5・6年生頃までの回答を合算した割合でみると、北部は2割、中部・南部が3割、宮古・八重山で4割(その他の離島の方が宮古島・石垣島より高い)。地域によっては、授業が分からなくなる時期の学年が早い傾向があった。

問16授業がわからなくなった時期

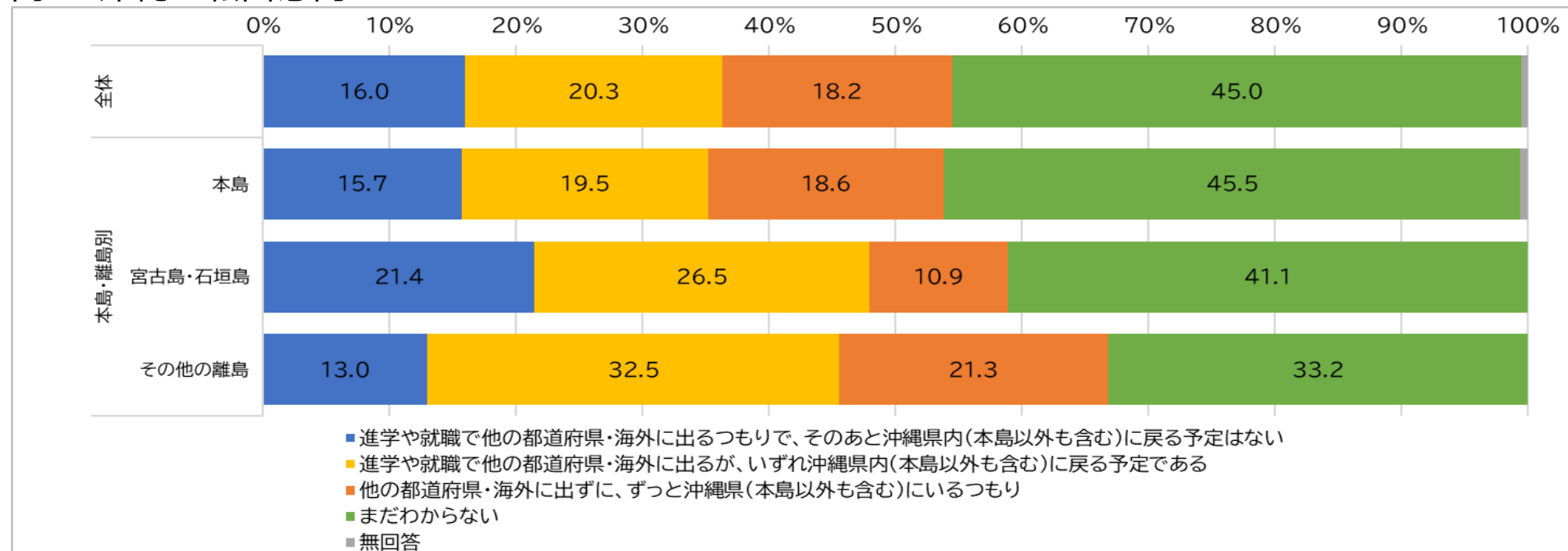


※問15学校の授業がわからないことがあるか で、「教科によってはわからないことがある」・「わからないことが多い」・「ほとんどわからない」の回答者のみ回答。全体の51%が対象。

2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(5)

- 沖縄の転出意向は離島で高いが、半数以上は沖縄に戻る予定
- 問18進学や就職で沖縄県外に出るつもりか(下図)では、「沖縄県外に出る(戻る予定ある・ない合算)」が本島35%よりも離島45%超で高いが、本島・離島共に半数以上の割合が「沖縄県内に戻る予定」であった。一方で、「沖縄県に戻る予定はない」は、宮古島・石垣島で2割程度いた。「ずっと沖縄県に
いる」は、その他の離島で2割以上おり、本島よりも高かった。

問18沖縄の転出意向



2-1.アンケート結果(全体:10~17歳)速報(6)

【有識者ヒアリングよりコメント(抜粋)】

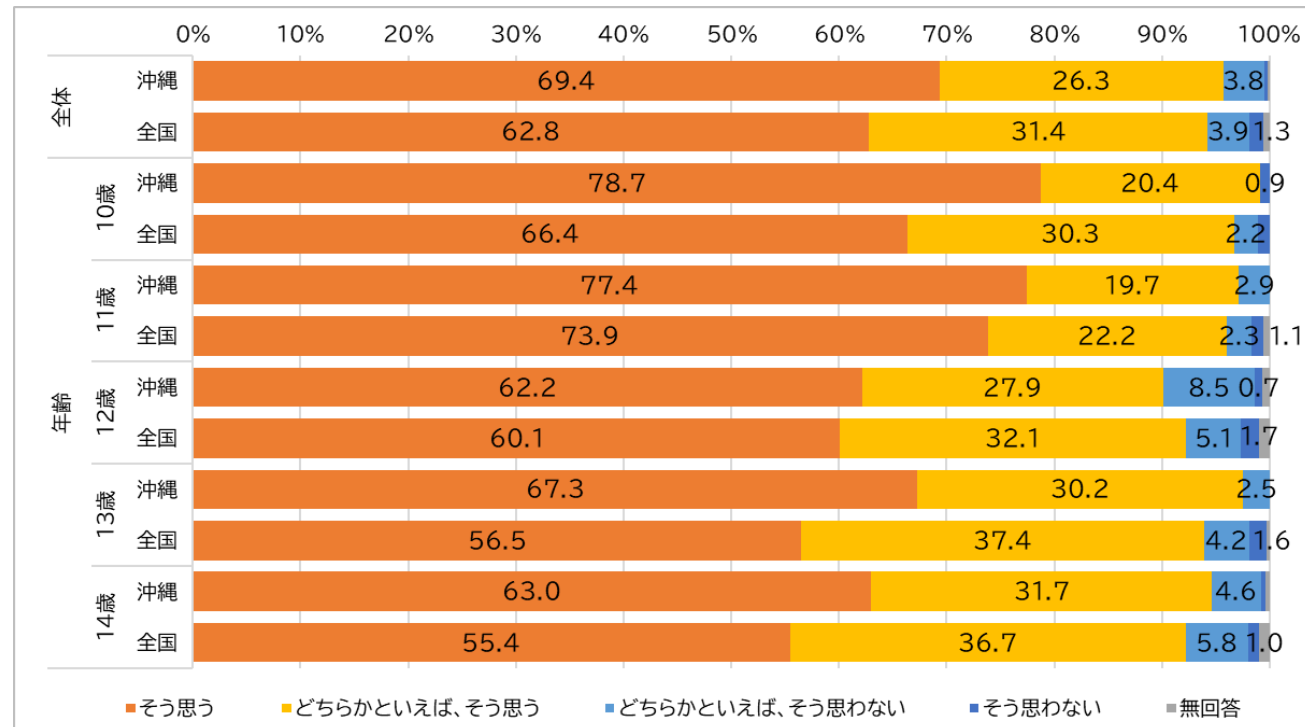
- 社会に出る時期(いつから社会に出て働くか)は、沖縄県「沖縄こども調査」でも同様の結果となっている。親の学歴が大きく影響し、親の学歴と同程度を志望することが多い。また、親が高学歴でなくとも、親がこどもには高い学歴を求める場合も多い。ただし、そうした家庭では進学の実付けとなる費用負担が難しく、奨学金頼みとなる実態があると考える。
- 社会に出る時期(いつから社会に出て働くか)は、本島と離島では、大学の有無が影響しているのではないか。学力差というよりも、大学生と接する機会や大学を見る機会などによる「大学生」へのイメージの有無が、漠然とした進路形成に結びついているのではないか。
- 沖縄の転出意向(進学や就職で沖縄県外に出るつもりか)は、例えば石垣島のこどもは直接東京を志望する傾向があり、沖縄本島は給与も高くなく家賃は高いため中途半端だと認識されている。地元へ戻ってきてほしいという親の意向も強い。地元に戻ってきてもいいような環境づくりが重要だと考える。こどもへの教育では、沖縄の伝統や文化、歴史、平和教育、沖縄の良さを伝えたいとの大人の意識は他地域よりも強いと受け止めている。近年は自然に沖縄へ戻る意識が強くなっているようであり、教育の結果、必然的に、県外へ転出しても最後は戻ってくる意識につながっているのが実態ではないか。

2-2.こども家庭庁調査との比較(全国との比較)速報

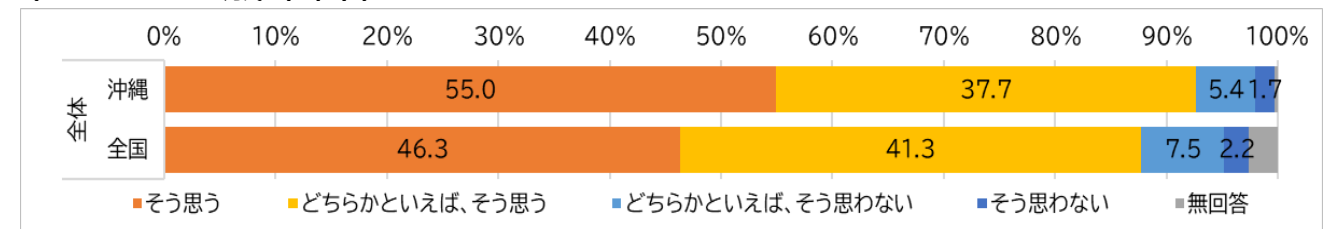
- 沖縄のこどもは幸福度・自己肯定感が高いが、10～14歳では孤独感も高い傾向
 - 問2自分が幸せだと思うかの「そう思う」の回答は、10～14歳集計(左図)・15～17歳集計(右図)いずれの属性で、沖縄県の方が全国より数ポイント上回る。特に10歳(左図)では、沖縄県が78.7%、全国が66.4%であり、沖縄県の方が12.3ポイント以上大きい。

問2 自分が幸せだと思うか

(10～14歳集計)



(15～17歳集計)



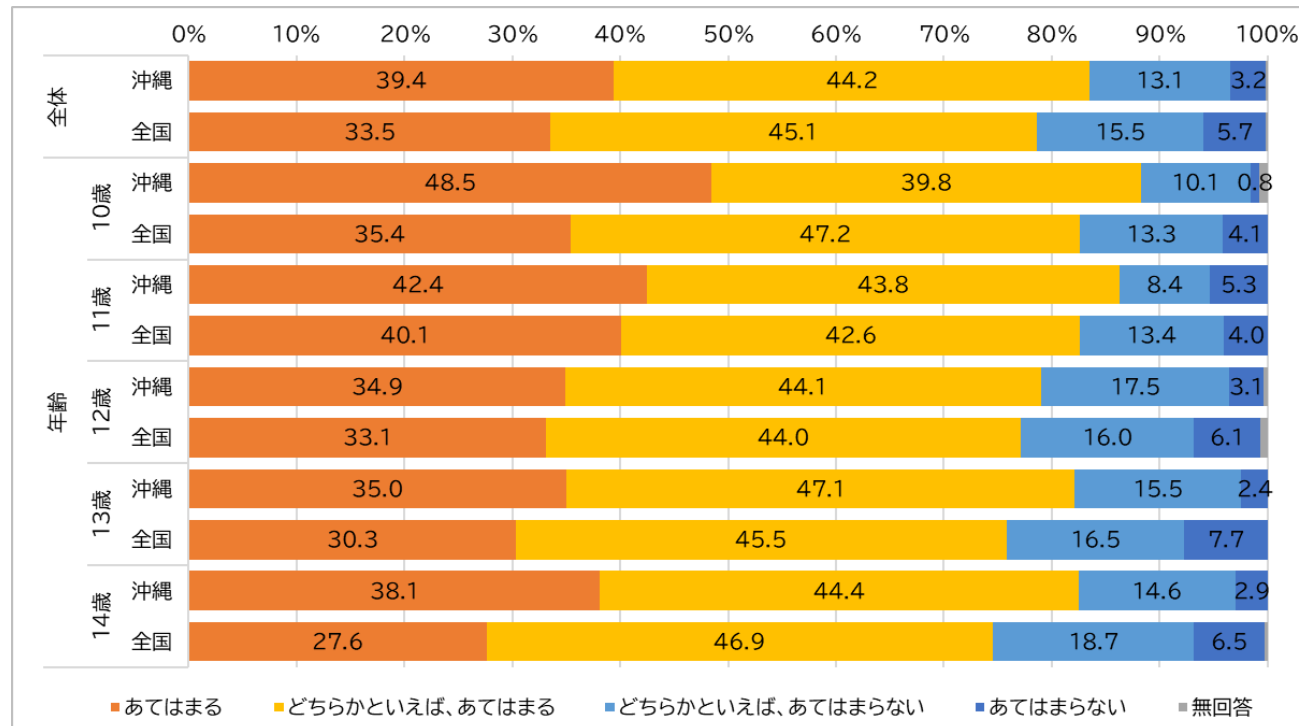
※こども家庭庁の調査は、3種類の調査(10歳～14歳対象調査、15歳～39歳対象調査、40歳～69歳対象調査)で構成される。それぞれの調査で集計が分かれており、15歳～39歳対象調査については年齢別集計のうち15～19歳の結果と比較を行っている。

2-2.こども家庭庁調査との比較(全国との比較)速報

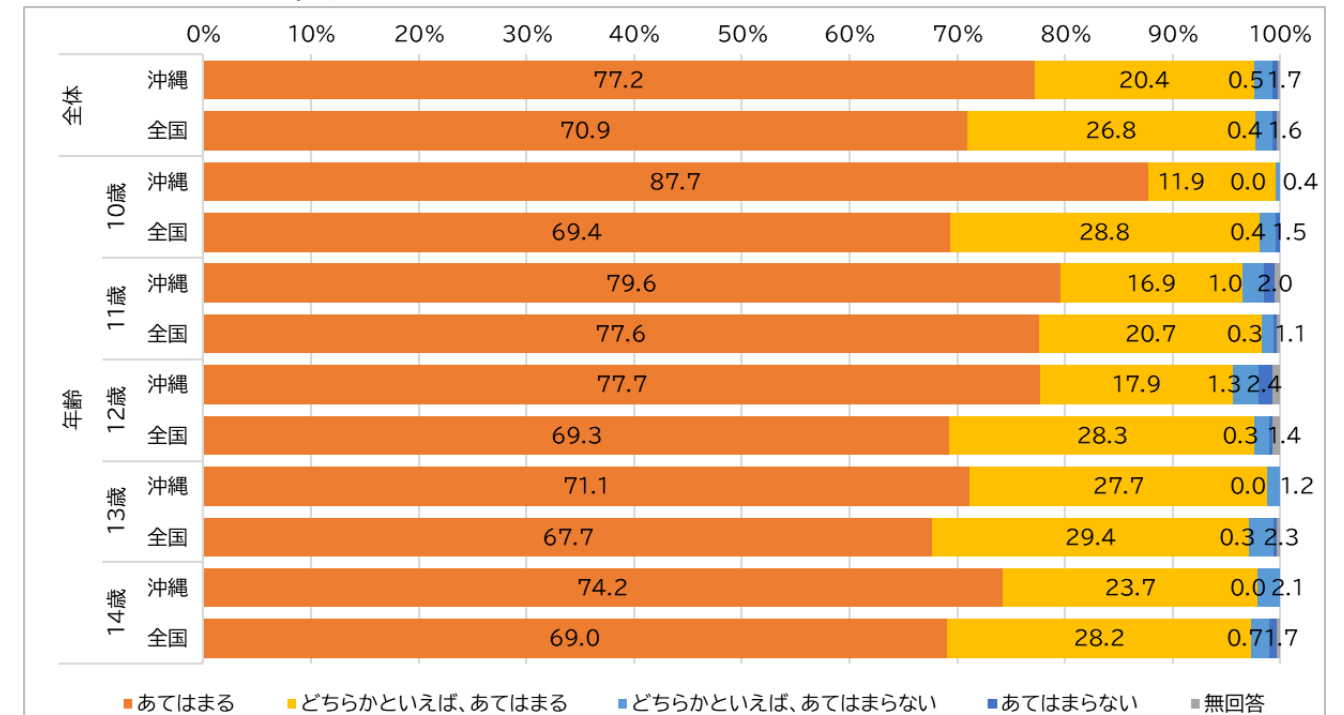
(つづき)

- 問1ア)今の自分が好きだ(左図)、イ)親から愛されていると思う(右図)、ウ)うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む(p.17左図)の「あてはまる」の回答は高く、エ)自分が役に立たないと強く感じる(p.17右図)の「あてはまる」の回答は低いことから、沖縄県の方が全国より自己肯定感が高い傾向。ただし、エ)自分が役に立たないと強く感じる(p.17右図)の10～14歳集計の13歳では、「あてはまる」の回答が沖縄県が9.3%、全国が6.1%で、沖縄県の方が3.2ポイント大きい。

問1ア)今の自分が好きだ(10～14歳集計)

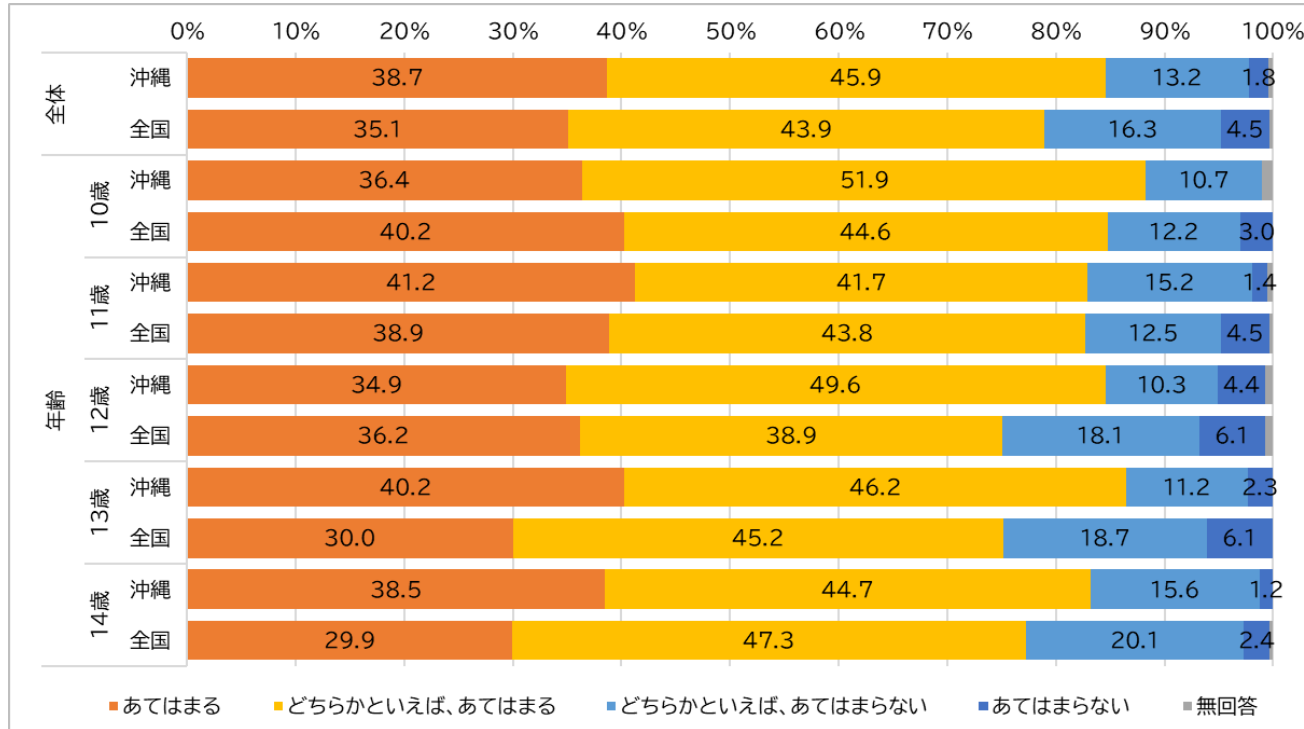


問1イ)親から愛されていると思う(10～14歳集計)

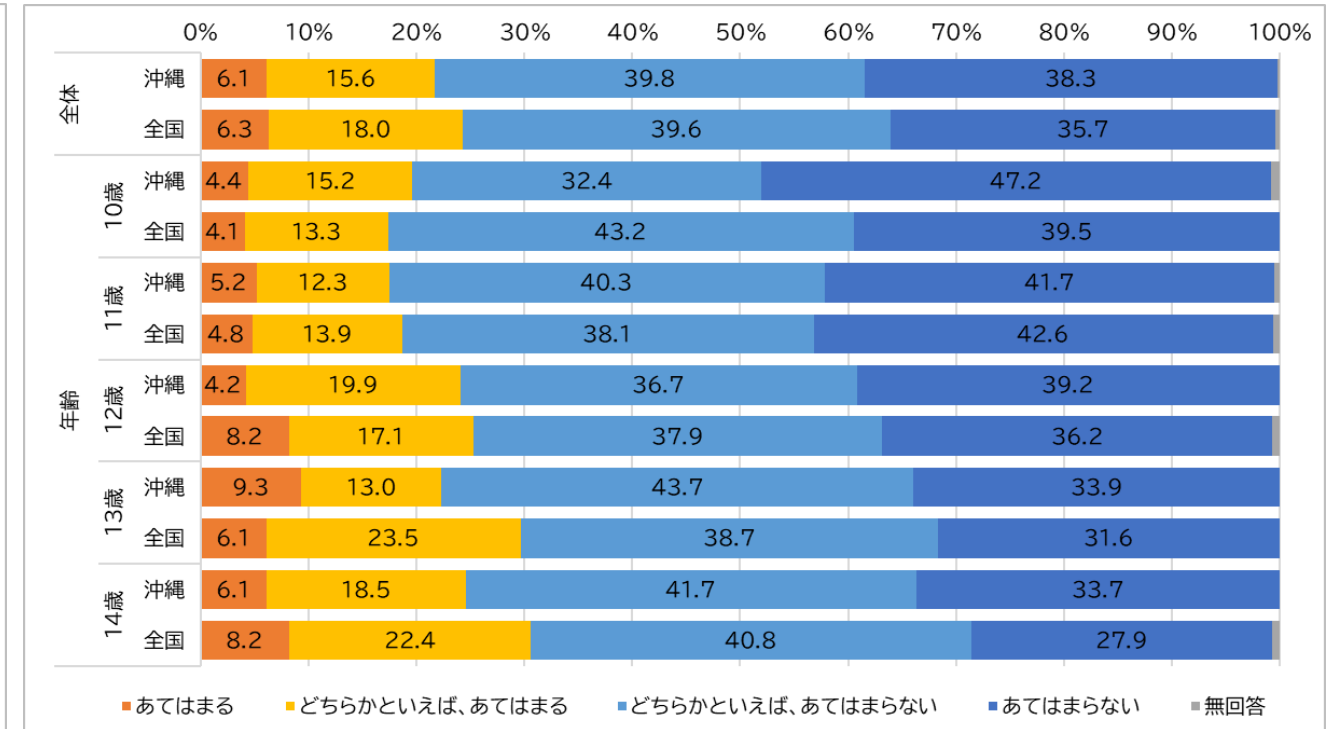


2-2.こども家庭庁調査との比較(全国との比較)速報

問1ウ)うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む
(10～14歳集計)



問1エ)自分が役に立たないと強く感じる
(10～14歳集計)



【有識者ヒアリングよりコメント(抜粋)】

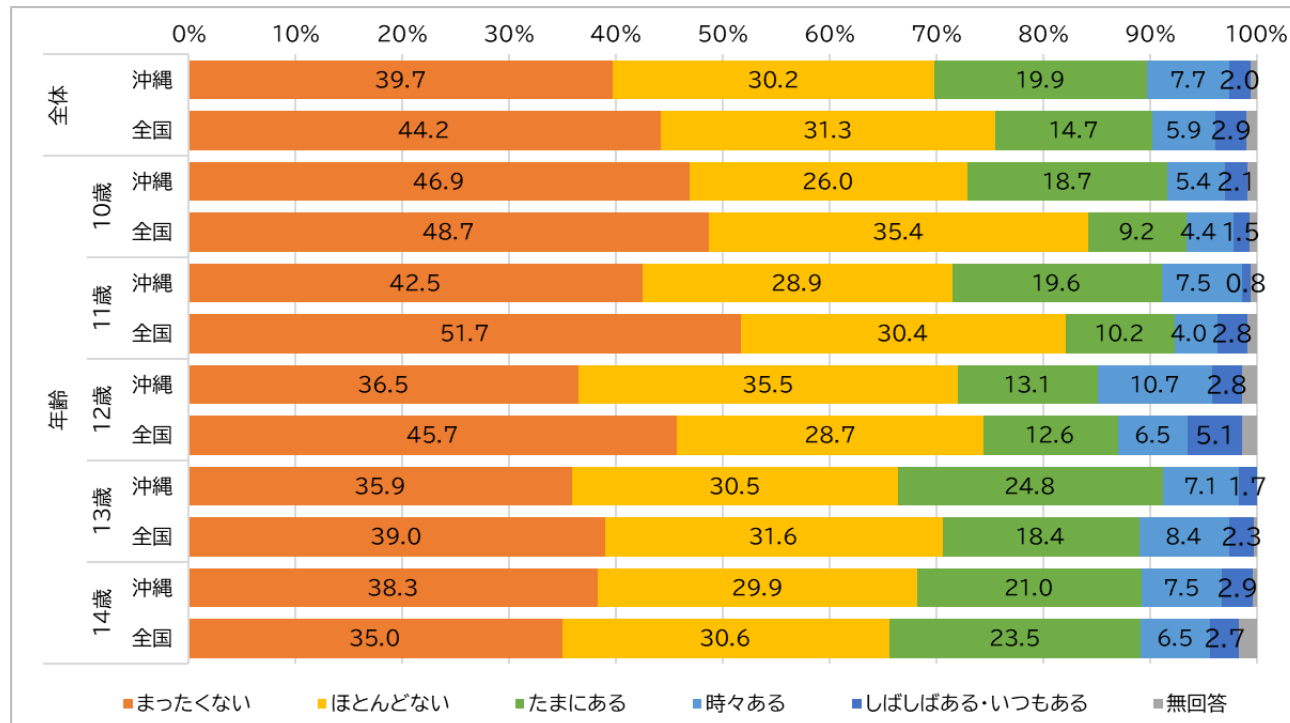
- 東京・大阪・愛知のような都市圏では主観的幸福度が低くなる傾向があり、富裕層・貧困層の格差が大きく、こどもが身近に格差を感じやすい環境にあるためだと考えられる。データ面では、全国の結果は人口が多い場所の傾向に引きずられることから、相対的に沖縄の主観的幸福度が高くなるのではないか。
- 沖縄と比較するならば、全国のほかに、沖縄の人口規模と同規模の都市群を比較すればよいのではないか。離島の多い地域(長崎県や愛媛県)のデータと比較すると特徴が示される可能性もある。

2-2.こども家庭庁調査との比較(全国との比較)速報

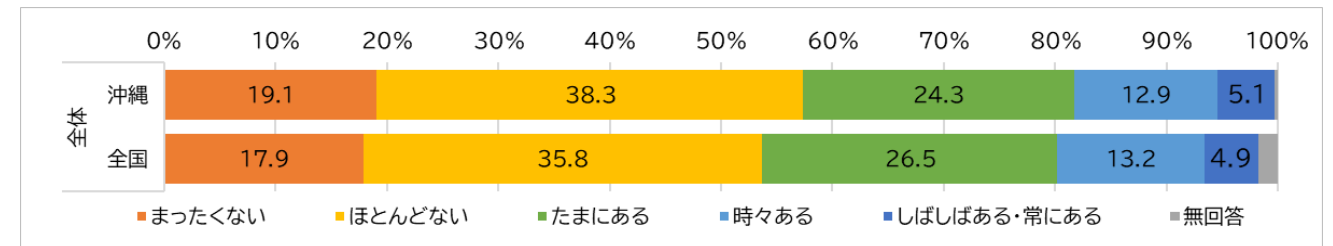
(つづき)

- 問5孤独だと感じるかでは、10～14歳集計(左図)で、「たまにある」・「時々ある」・「しばしばある・いつもある」を合算した割合が、全体で、沖縄県が29.6%、全国が23.5%で、沖縄の方が6.1ポイント大きかった。特に、10歳・11歳で沖縄県の方が10ポイント以上大きい。なお、15～17歳集計の孤独感(右図)では、同じく合算した割合が、沖縄が42.3%、全国が44.6%で、沖縄の方が全国より2.3ポイント小さく、10～14歳集計とは逆に孤独感が比較的低かった。

問5 孤独だと感じるか(10～14歳集計)



(15～17歳集計)



※こども家庭庁の調査は、3種類の調査(10歳～14歳対象調査、15歳～39歳対象調査、40歳～69歳対象調査)で構成される。それぞれの調査で集計が分かれており、15歳～39歳対象調査については年齢別集計のうち15～19歳の結果と比較を行っている。

3. 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(1)

分析内容②沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(再掲)

沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析するため、文献調査等の結果を参考に、沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素と主観的要素の関係を分析することで、沖縄のこどものウェルビーイング実現に向けた政策課題・視点を得る。

- 今回アンケートにおける、沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素と主観的要素の設問
 - 客観的要素の設問：年齢、居場所の数、生活時間、困窮度 ※客観的要素の設問のうち順位尺度の設問を対象
 - 主観的要素の設問：幸福度、生活満足度、孤独感
- 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素と主観的要素の関係については、アンケートのデータ(ウェイトバック前)を相関係数にて分析した。
 - 相関係数：データ(変数)同士にどのような関係があるか(どのような方向・強さで動くか)を示す数値。1から-1の間の数値で、数値の絶対値が大きいほど強い関係があることを示す。

[例]

変数	相関係数	関係性
身長と体重	0.8	身長と体重には、「強い正の相関」がある(身長が高い人ほど体重も重い傾向がある)
体重と運動時間	-0.5	体重と運動習慣には、「中程度の負の相関」がある(頻繁に運動する人ほど体重が軽い傾向がありそうである)

3. 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(1)

(つづき)

- 加えて、下記の設問を対象に、客観的要素と主観的要素で設問間のクロス集計を行うことで、具体的な関係性を確認した。
 - 年齢と主観的要素の各設問
 - 居場所の数と主観的要素の各設問
 - 所有しないものの数(困窮度)と主観的要素の各設問

3. 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(2)

- 客観的要素と主観的要素との相関係数

- 客観的要素の設問である年齢(F2)、居場所の数(問4*1)、生活時間(問10)、困窮度(問20*2)と、主観的要素の設問である幸福度(問2・問21)、生活満足度(問21)、孤独感(問5*3)との関係性を相関係数*4にて確認した。
- 主観的要素の各設問と「居場所の数」は相関係数が0.3程度であり、弱い正の相関が見られた。

➤ 主観的要素と客観的要素の相関係数

設問	主観/客観	問2)幸福度 (4段階評価)	問21イ)幸福度 (11段階評価)	問21ウ)生活満足度 (11段階評価)	問5)孤独感 (5段階評価)
		主観	主観	主観	主観
F2)年齢	客観	-0.17	-0.16	-0.17	-0.21
問4)居場所の数	客観	0.32	0.35	0.34	0.26
問10)生活時間:ア) ゲームをする	客観	-0.06	-0.06	-0.03	0.00
問10)生活時間:イ) SNS閲覧・書き込み	客観	-0.14	-0.10	-0.11	-0.16
問10)生活時間:ウ) テレビや動画視聴	客観	-0.11	-0.10	-0.12	-0.14
問10)生活時間:エ) 勉強	客観	0.06	0.05	0.04	-0.01
問10)生活時間:オ) 家事	客観	-0.01	0.02	-0.02	-0.06
問10)生活時間:カ) 家族の介護・看病・世話	客観	0.05	0.04	0.05	0.01
問20)困窮度	客観	-0.17	-0.17	-0.21	-0.11

*1 設問4のア～オの項目うち「そう思う」または「どちらかと言えば、そう思う」を選択した項目数をカウント。カウントは0個～5個で分析を行った。

*2 設問20のア～エの項目(10～14歳)のうち「ない(ほしい)」、またはア～セ(15～17歳)うち「持ちたいが持っていない(やりたいができない)」を選択した項目数をカウント。カウントは0個、1個、2個、3個、4個、5個以上に集約して分析を行った。

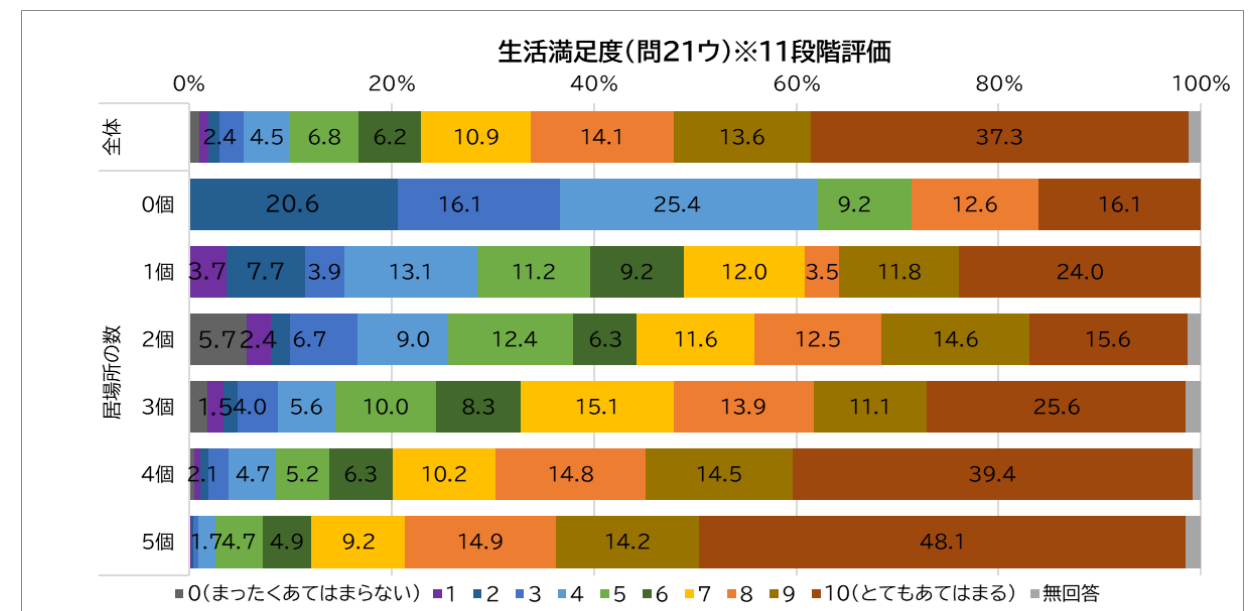
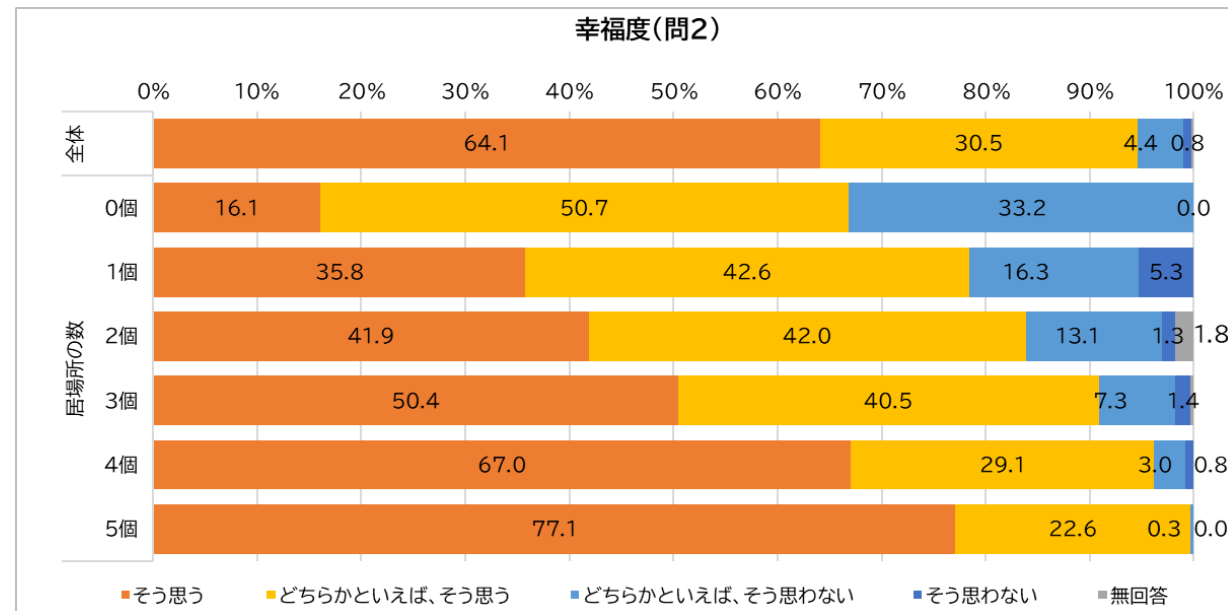
*3 「しばしばある・いつもある」～「まったくない」の選択肢を逆転して計算(孤独を感じる事が「まったくない」ほど主観的要素がよい評価になるように調整)

*4 分析の対象の設問において1つでも無回答があるサンプルは削除し、対象の全設問で回答しているサンプルのみで分析(全1,735サンプルのうち1,649サンプル(95.0%)対象)

3. 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(3)

- 居場所の数は幸福度と正の相関。困窮度が高い層は他層より幸福度が低い傾向
- 居場所の数と主観的要素の各設問では、相関係数が0.3程度で、弱い正の相関がみられた(p.21)。クロス集計でみても、居場所の数が増加すると、幸福度(左図)で「そう思う」や「どちらかといえば、そう思う」、生活満足度(右図)で11段階評価の10(とてもあてはまる)といった良い評価の割合が増加する傾向があった。

居場所の数と主観的要素の各設問のクロス集計結果

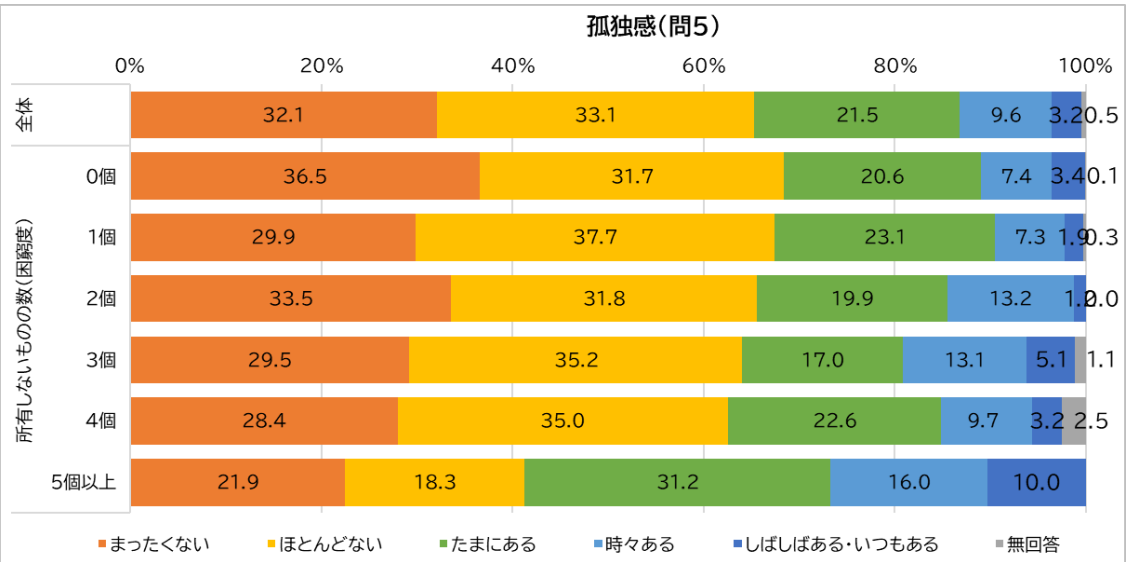
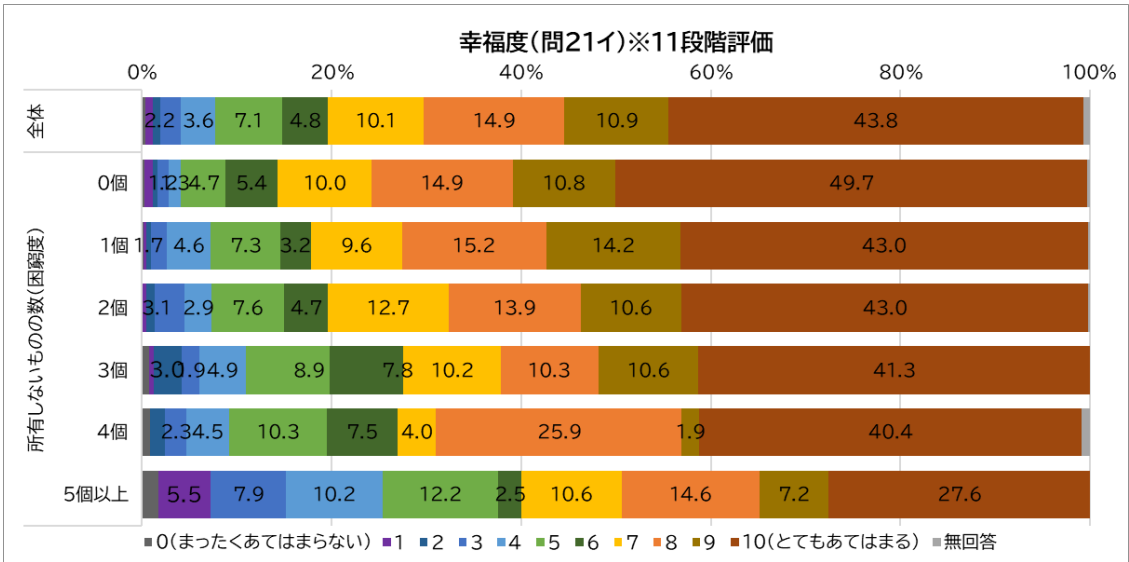


3. 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(3)

(つづき)

- 所有しないものの数(困窮度)と主観的要素の各設問では、クロス集計でみると、所有しないものの数が増加すると、幸福度や生活満足度、孤独感においても、よい評価の割合が減少する傾向があった。
 - 特に、所有しないものの数が4個までと5個以上で、傾向が異なっている。幸福度(左図)では、8～10を合算した割合が、4個の場合は68.1%、5個以上の場合は49.4%で18.7ポイントの差があった。また、孤独感(右図)では、「まったくない」と「ほとんどない」を合算した割合が、4個の場合は63.4%、5個以上の場合は40.2%で23.2ポイントの差があった。5個以上の回答者数は全体の5%程で少ないが、困窮度が高い層は幸福度が低い傾向にあるため、注視が必要。

所有しないものの数(困窮度)と主観的要素の各設問のクロス集計結果



3. 沖縄のこどもの現状・課題に関する客観的要素の把握・分析(3)

【有識者ヒアリングよりコメント(抜粋)】

- 居場所の数と主観的要素の関係について、居場所の数が3か所以上の場合、自己効力感的要素が大きく変化するといわれている。今後は、居場所の数が1か所のサンプルに着目して分析したり、個別にヒアリングするなど深掘したりすると、面白い結果が得られるのではないか。
- 居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)は、こどものウェルビーイングに関して重要。居場所の数ではなく、この居場所があれば安心できる、という居場所があることが重要であり、居場所でも、例えば家庭と地域での重きが異なると思われ、居場所の重要さも考慮できるとよい。

4.有識者ヒアリング:その他、今後の調査・分析に向けた改善点

【有識者ヒアリングよりコメント(抜粋)】

アンケートデータの分析結果に対するその他のご意見

- 家庭や学校以外での悩みや困りごとなどを相談できる場所の認知度(問13)が、沖縄ではいずれの属性でも全国より低い結果だったのは予想外であり、こども達の質問の受け止め方(何を連想するか)が全国と異なるのではないか。内地のこどもは塾など行く場所がある可能性が高く、これらの場所を想起したのではないか。
- 今のあなたにとっての居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)(問4)において、「インターネット空間」が居場所だと思う割合は、沖縄の方が全国と比べて異常に高かった。理由を深掘してみたい。

今後の調査・分析に向けたご意見

- 10-14歳の孤独感がなぜ高いかの原因は現状は明らかになっていないため、追究すべき点の一つである。孤独感の結果についてどう解釈するかは難しいところがある。依存先が減るほど苦しくなるのか、孤独だから行く場所がないのか、居場所とつながったから孤独が減るのか。今後はアンケート調査の改善というより、個別ヒアリングを重ねることが一番のポイントではないか。
- 第2回協議体にて、精神的な支えが課題ということが浮き彫りにされた。今回の結果より、それが裏打ちされるようなデータがあればよい。精神的なサポートが欲しいと思っているのはどのグループか、そこがわかれば政策的に支援可能になると考える。

5. 沖縄のこどものウェルビーイングに関する研究の必要性

- 全国と比較して、沖縄のこどもは主観的幸福度が高い状態であるが、これまで確認してきたとおり問題も残されている。その状況の分析や解明、こどもの将来も含めた研究テーマを設定し、取り組む必要がある。

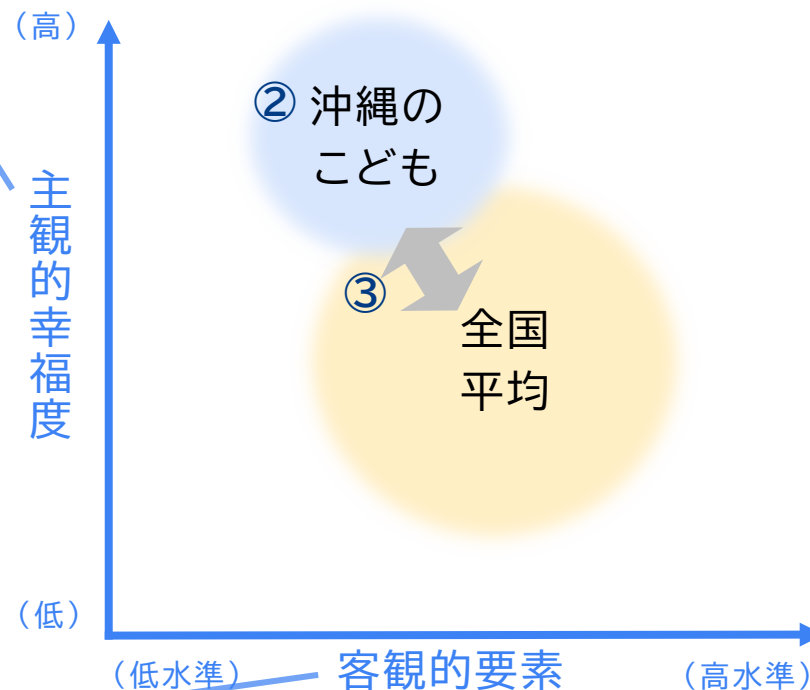
主観的幸福度・客観的要素の関係イメージ

- ① 【前提】目標設定のため「沖縄のこどもにとって大切なこと」を定義したい

沖縄のこどもの主観
(アンケート調査結果より)
・主観的幸福度の高さ
・自己肯定感の高さ(離島のほうが本島より高い) 等



沖縄のこどもをとりまく現状
(沖縄に関する文献調査・ヒアリング調査結果より)
・所得の低さ(貧困の問題)
・学力の低さ 等



研究テーマ例と、アンケート調査等から得られた深堀する観点 ※以下番号は図中と対応

- ① 沖縄のこどもウェルビーイングの指標体系の作成
- ② 沖縄のこどもウェルビーイングの定点把握
 - ・ 客観要素が不足している他県との比較
 - ・ 沖縄県内の地域別の分析
- ③ 沖縄のこどもに関わる社会文化的特徴の研究
 - ・ 気候や離島の特性
 - ・ ゆいまーるに代表される沖縄文化の特性
 - ・ 沖縄のこどもの「高い自信」の背景の分析
- ④ サポートの仕方の改善方策に関する研究
 - ・ 学力低下が始まるタイミングの違い、地域性やその要因
 - ・ 居場所の数に加え、それらの連携方法の検討とその影響・効果の分析
- ⑤ こどもが大人になるまでの発達過程の長期的なウェルビーイングの変化や要因、キャリア形成のあり方の研究
 - ・ 沖縄からの転出、戻ることとウェルビーイングの関係性

(参考1)アンケート調査の設計・設問概要

- アンケートは、沖縄県在住のこどもを対象に行い、今の幸福感や自己肯定感等の主観的要素や、生活時間や学習環境等の客観的要素について問う設問とした。

➤ 標本設計及び実施方法の概要

タイトル	沖縄のこどものウェルビーイングに関する調査～こどもの意識と生活について～
母集団	沖縄県内に在住する10～17歳(令和7年4月1日時点)のこども
調査母集団	住民基本台帳から抽出
抽出数	5,000(10～14歳2,586、15～17歳2,414)
抽出方法	層化二段無作為抽出法
地区区分	6地域(那覇市、北部、中部、南部、宮古、八重山)
標本割付	二つの年代票ごとに地域・性別で人口比例配分 ※ただし宮古・八重山エリアは地域の2倍標本割付
調査方法	郵送配布、郵送回収またはWEB回収
調査票種類	年齢区分に応じて2種類(10～14歳票、15～17歳票)、調査は無記名(個人特定なし)で実施
設問数	10～14歳票27問、15～17歳票28問
有効回答数(有効回答率)	1,735(34.7%)、うち10～14歳987(38.2%)、15～17歳748(31.0%)
調査期間	2025年9月22日(月)～10月17日(金)

(右表凡例)【参考設問】

こ家庁:こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度)」
沖縄県:沖縄県「令和6年度沖縄こども調査(小中学生)」
東京都:東京都「とうきょうこどもアンケート(令和6年度)」

【10～14歳票】、【15～17歳票】

○:同設問・同選択肢、●:同設問・異なる選択肢、
ア～セ:小項目の種類(*は異なる種類の場合)

➤ 設問の概要

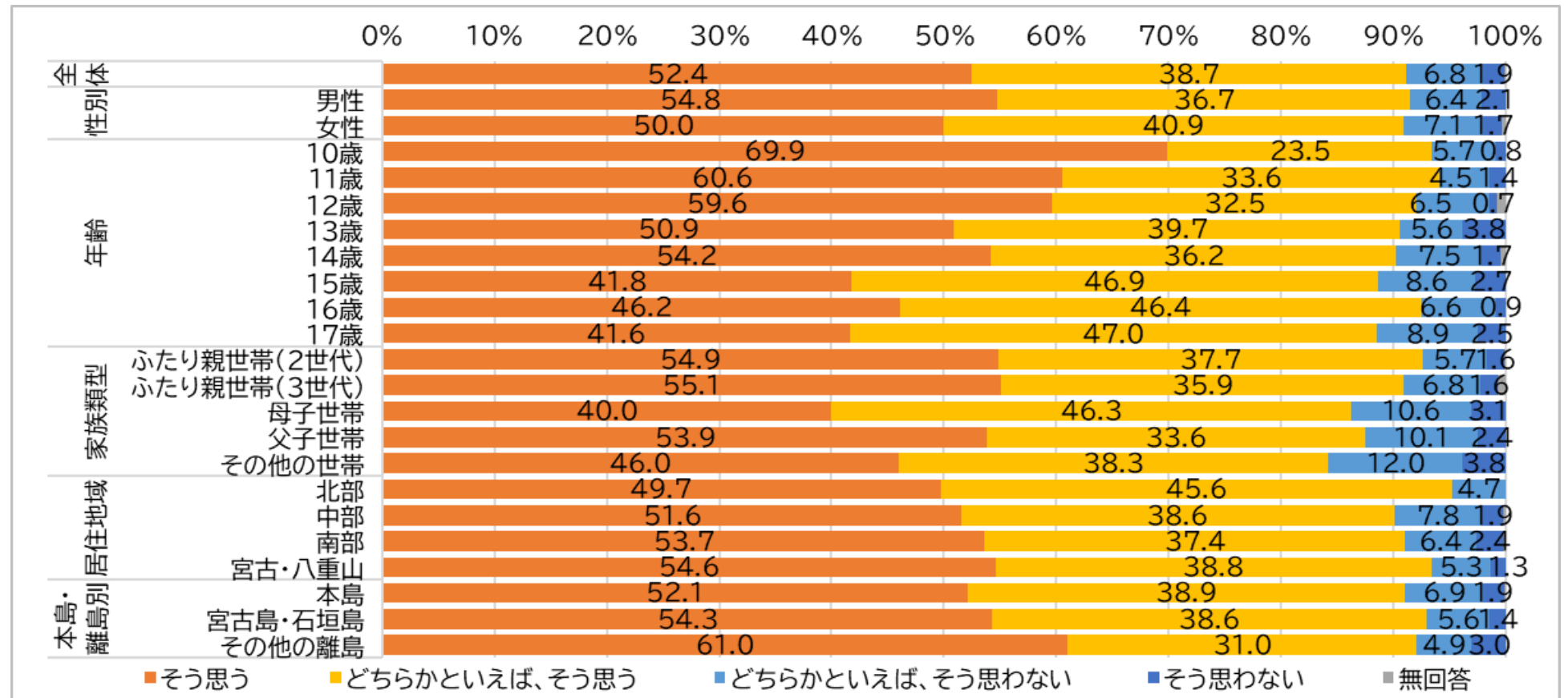
設問番号	主観/客観	設問概要	参考設問	10～14歳票	15～17歳票
F1～F3	客観	性別、年齢、同居者	こ家庁	○	○
F4-1	客観	在学校	こ家庁	●	●
F4-2	客観	就業経験	こ家庁	-	○
F5	客観	居住地	独自	○	○
問1	主観	自己肯定感	こ家庁	ア～エ	ア～エ
問2	主観	(主観的)幸福度	こ家庁	○	○
問3	主観	こどもからみた親の幸福感	独自	○	○
問4	主観	居場所(主観) → [集計]居場所の数(客観)	こ家庁	ア～オ	ア～オ
問5	主観	孤独感	こ家庁	○	○
問6	主観	周囲の人との関わり方(家族・親戚)	こ家庁	ア～ウ	ア～カ*
問7	主観	周囲の人との関わり方(学校の友人)	こ家庁	ア～ウ	ア～カ*
問8	主観	周囲の人との関わり方(地域の人)	こ家庁	ア～ウ	ア～カ*
問9	主観	将来への希望	こ家庁	○	○
問10	客観	家での過ごし方(生活時間)	沖縄県改変	ア～カ	ア～カ
問11	主観	相談相手	こ家庁	○	○
問12	主観	相談相手なしの理由	こ家庁	○	○
問13	客観	相談場所の認知度	こ家庁	○	○
問14	客観	勉強場所	沖縄県	○	○
問15	主観	勉強のつまづき	沖縄県	●	○
問16	主観	勉強のつまづき(授業が分からなくなる)時期	沖縄県	●	●
問17	主観	社会に出る時期	東京都	○	○
問18	主観	沖縄の転出意向	独自	○	○
問19	主観	将来像までの障害	東京都	○	○
問20	客観	所有物(客観) → [集計]困窮度(客観)	沖縄県	ア～ス	ア～セ*
問21	主観	自己肯定感、主観的幸福度、生活満足度 等	東京都	ア～ケ	ア～ケ
問22	主観	親からの影響(自由記述)	独自	○	○

(参考2)アンケート調査にて独自に追加した設問(2問)(1)

- こどもからみた親の幸福感は高い割合。傾向はこども自身の幸福感と同様。
- 問3自分の親(保護者)が幸せだと思うか(下図)では、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合算した回答割合がいずれの属性でも9割程度が多い。ひとり親世帯(母子世帯、父子世帯)で9割を下回る。これはこどもの幸福度(問2, p.6)と同じ傾向。居住地域では、北部が同割合で中部や南部よりも4ポイント以上高い割合となっている。

【こどもからみた親の幸福感】

問3 あなたは、今、自分の親(保護者)が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(ひとつだけ)

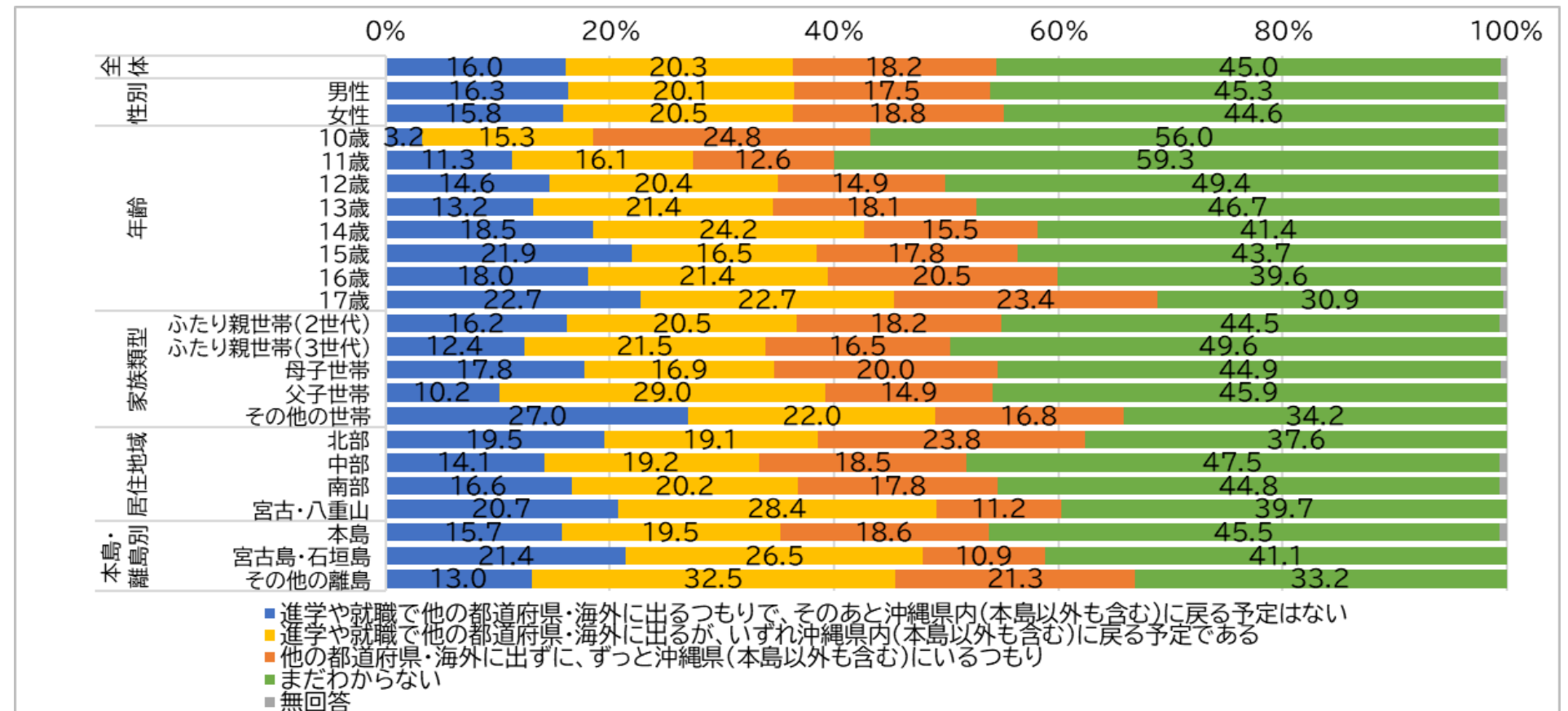


(参考2)アンケート調査にて独自に追加した設問(2問)(2)

- 沖縄の転出意向は離島で高いが、半数以上は沖縄に戻る予定(p.11再掲)
 - 問18進学や就職で沖縄県外に出るつもりか(下図)では、「沖縄県外に出る(戻る予定ある・ない合算)」が本島35%よりも離島45%超で高いが、本島・離島共に半数以上の割合が「沖縄県内に戻る予定」であった。一方で、「沖縄県に戻る予定はない」は、宮古島・石垣島で2割程度いた。「ずっと沖縄県にいる」は、その他の離島で2割以上おり、本島よりも高かった。

【沖縄の転出意向】

問18 あなたは将来、進学や就職のために沖縄県から他の都道府県や海外に出ていこうと思いますか。沖縄県を出た後に、その先の将来で沖縄県に戻ってこようと思いますか。(ひとつだけ)



(参考3)こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」(令和4年度)

■ 概要

- こども・若者を取り巻く現状及び課題を的確に把握し、国及び地方公共団体におけるこども・若者育成支援施策や家庭・学校・地域・職域等におけるこども・若者育成支援の改善・充実に資する基礎資料を得ることを目的とする。

➤ 標本設計及び実施方法の概要

調査対象者	①10～39歳の男女 20,000人 (うち10～14 歳2,813人、15～39 歳17,187人) ②40歳～69歳の男女 10,000人 ※令和4年4月1日時点
抽出方法	層化二段無作為抽出法 ①層化:全国の市町村を都道府県を単位として11地区、各地区は都市規模によって25分類、計65層 ②調査地点の配分:地区・都市規模別各層における母集団の大きさにより人口比例配分
調査方法	郵送法(オンライン回答併用)
調査票種類	3種類(10 歳～14 歳対象調査、15 歳～39 歳対象調査、40 歳～69 歳対象調査)
設問数	20～30問程度
有効回収数	10～39歳:8,555人、40～69歳:5,214人 (うち10～14歳:1,520人、15～39歳:7,035人)
調査期間	令和4年11月10日～25日(30日事務局到着分まで)

➤ 設問の具体例

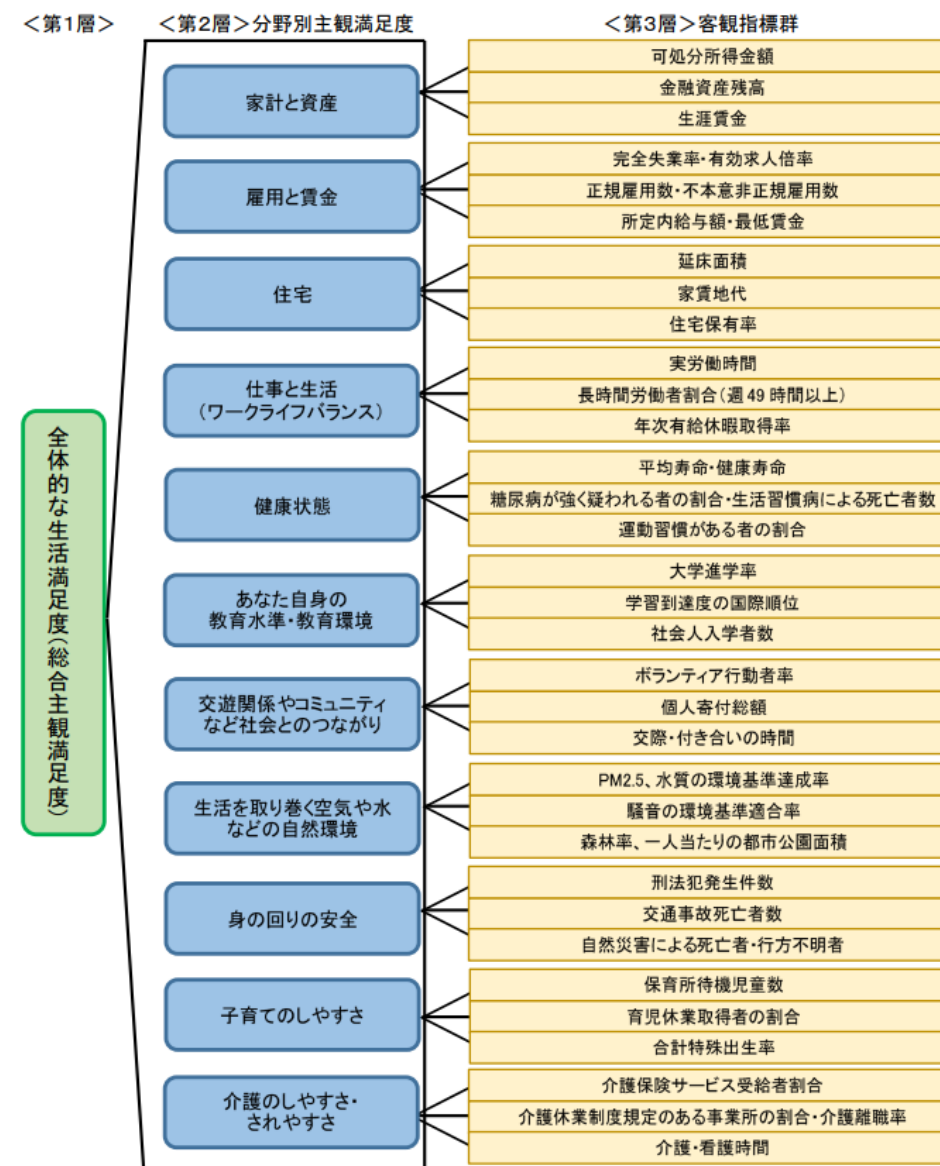
大項目	具体例 ※①10～14歳対象調査、②15～39歳対象調査
幸福感・自己肯定感	- 今の自分が好きだ(①、②) - うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(①、②) - あなたは、今、自分が幸せだと思いますか(①、②)
孤独感	あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか(①、②)
他者との関わり方	- 家族・親戚と会話やメール等をよくしている(①、②) - 家族・親戚に何でも悩みを相談できる人がいる(①、②)
社会参加	社会のために役立つことをしたいと思いますか(①、②)
将来像	- 自分の将来について明るい希望を持っていますか(①、②) - あなたは20年後、どのようになっていると思いますか(②)
普段の活動	普段自宅にいるときの活動[テレビを見る/介護・看護をする/インターネットをする 等](①、②)
外出状況	普段、仕事や学校で平日は毎日外出する/自宅からほとんど出ない(①、②)
困難に直面した経験等	- ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思いますか、また、現在、ありますか(①) - 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか(②)
相談・支援	- 相談したり助けてもらったりしやすい人[家族や親せき/学校の友達/誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない](①、②) - 誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない理由(①、②)

(参考4)内閣府「満足度・生活の質に関する調査」(2024年)(1)

■ 概要

- 「満足度・生活の質に関する調査」は、OECDの「より良い暮らし指標(BLI)」をベースに、日本の重要課題に係る分野(子育て、介護)を加えた「満足度・生活の質に関する指標群(ダッシュボード)」を作成。主観満足度(総合、分野別)と客観指標群を対応付け、主観満足度を変動させる要因を分析しやすい構造としている
- 指標群は、全体的な生活満足度を表す「総合主観満足度」、生活分野別の「分野別主観満足度」、分野別主観満足度と関係性が深い「客観指標群」という三層構造。各層が紐付けられ、総合主観満足度の増減の要因等进行分析できるようになっている

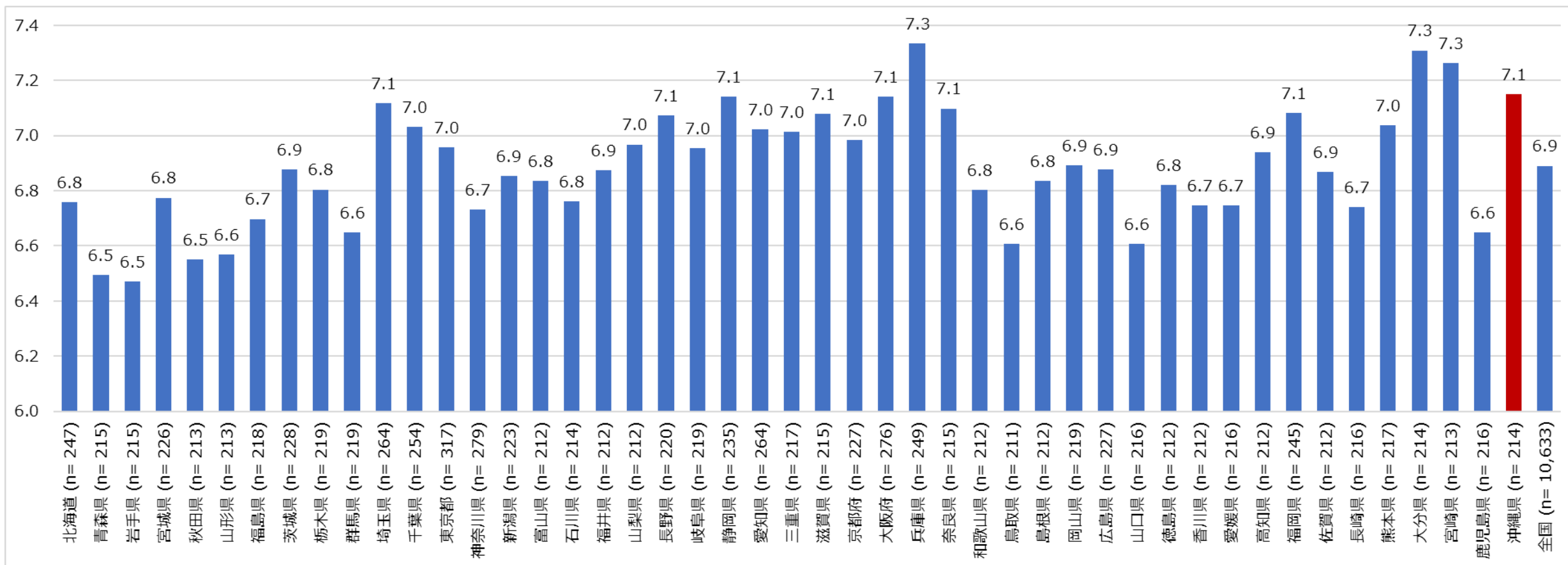
図 満足度・生活の質を表す指標群(Well-being ダッシュボード)の体系図



(参考4)内閣府「満足度・生活の質に関する調査」(2024年)(2)

- 沖縄県の主観的要素に関する基礎データ
- 個票より生活満足度(総合主観満足度)について都道府県別に平均値を算出した
 - 沖縄県の生活満足度の平均値は7.1であり、全国の平均値6.9より高く、都道府県で比較しても高い水準

図 生活満足度(総合主観満足度)の都道府県別平均値(2024年)

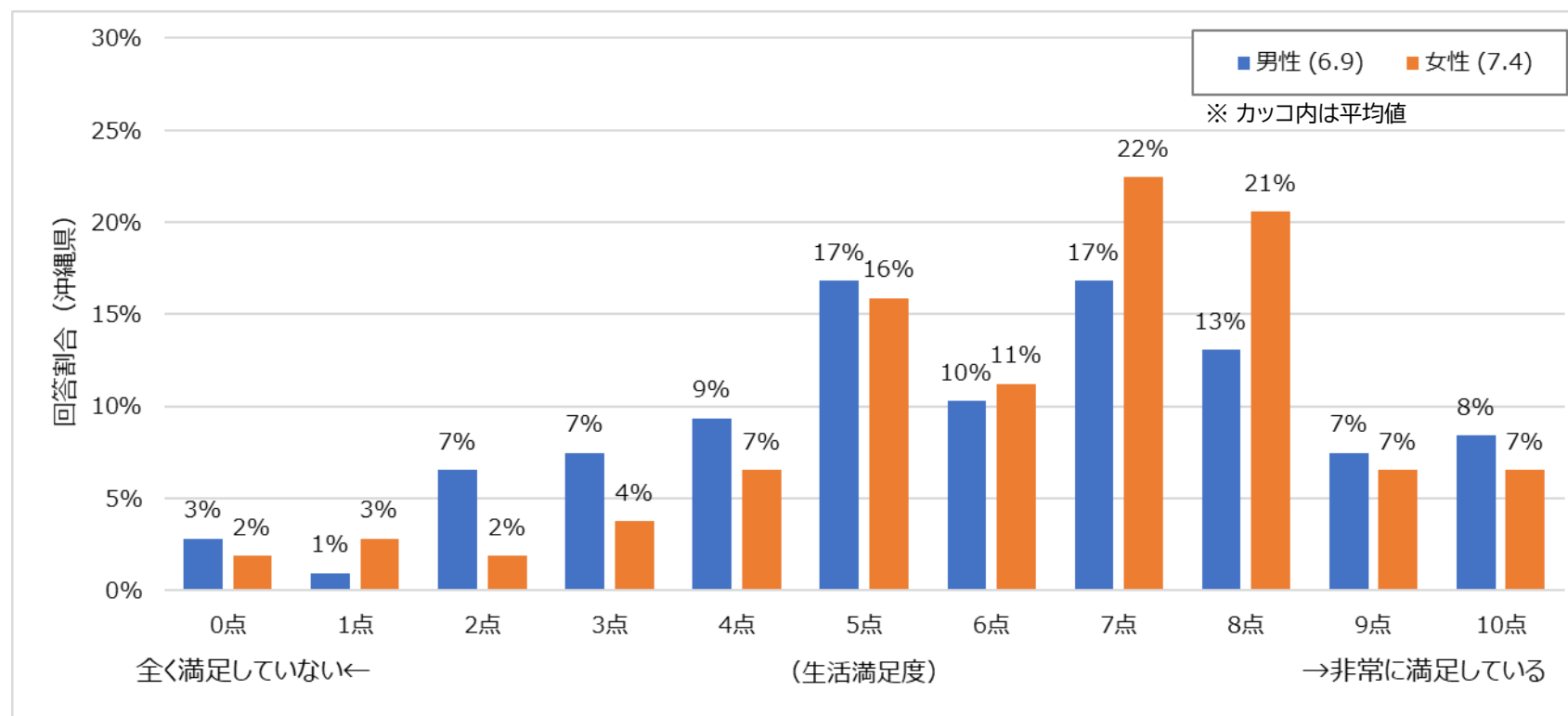


設問「Q1.あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。」「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。」
出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査2024」の個票よりMRA作成

(参考4)内閣府「満足度・生活の質に関する調査」(2024年)(3)

- 沖縄県の主観的要素に関する基礎データ
- 個票より沖縄県の生活満足度(総合主観満足度)について性別に平均値を算出した
 - 沖縄県の生活満足度(総合主観満足度)の平均値を性別で見ると、男性6.9、女性7.4で女性の方が高い
 - 女性は点数のピークが7～8点にあり20%超。対して男性は、2～4点の割合が女性より高いことに加え、ピークは5点と7点で、ピーク時の割合も女性より低い(山が低い状態)

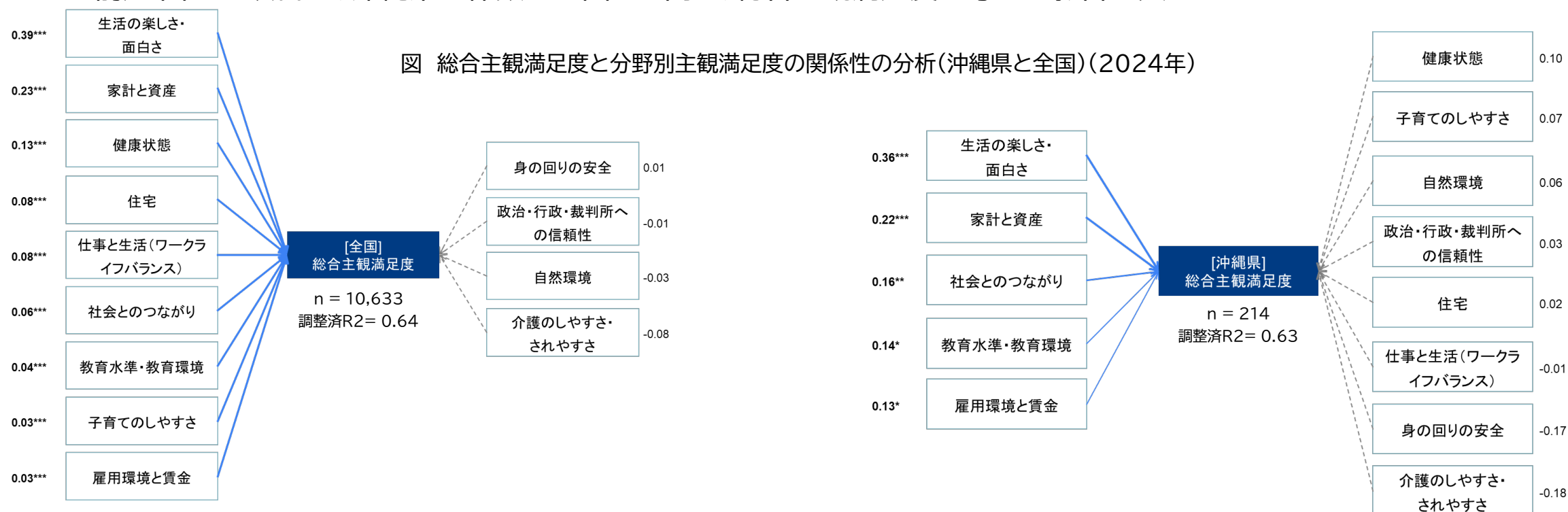
図 沖縄県の性別生活満足度の分布(2024年)



設問「Q1.あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。『全く満足していない』を0点、『非常に満足している』を10点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。」
出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査2024」の個票よりMRA作成。沖縄県n=214(男性n=107、女性n=107)

(参考4)内閣府「満足度・生活の質に関する調査」(2024年)(4)

- 沖縄県の主観的要素に関するデータ分析
- 個票を用いて、主観総合満足度とそれに紐づく11の分野別主観満足度の関係性について、全国と沖縄県それぞれ重回帰分析を行った。
 - 総合主観満足度と関係の強い、統計的有意がある分野別主観満足度は、沖縄県では「生活の楽しさ・面白さ」、「家計と資産」、「社会とのつながり」*、「教育水準・教育環境」*、「雇用環境と賃金」*。全国では、沖縄県と同じ項目に加えて、「健康状態」、「住宅」、「仕事と生活」、「子育てのしやすさ」。
 - 前述(*)の3項目は、沖縄県の係数は全国より高く、総合主観満足度へ与える影響が大きいといえる



※ 矢印は実線(左側)が正の符号かつ有意であった分野別主観満足度の項目(*** :1%、** :5%、* :10%)、右側は負の符号あるいは有意ではなかった分野別主観満足度の項目。数値は偏回帰係数
出所)内閣府「満足度・生活の質に関する調査2024」の個票よりMRA作成

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ